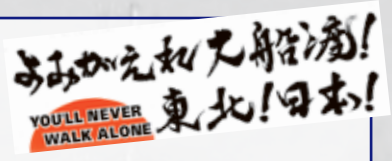
大船渡市内みなし仮設世帯への

今年度、一宮市社会福祉協議会の重点事業の１つとして、東日本大震災で被災された岩手県大船渡市において平成 24 年４月～ 11 月にかけて実施した傾聴ボランティア活動を報告します。

本活動実施の経緯



東日本大震災直後、愛知県社会福祉協議会からの依頼で、職員3名を各1週間ずつ大船渡市に派遣し、現地社会福祉協議会の支援を行ったことがきっかけで、一宮市と大船渡市にご縁ができました。

昨年度は、「福祉とボランティア活動展」において、記念品を大船渡市内の授産施設から購入したり、東北の物産販売ブースを設けたり、職員各自が大船渡市社会福祉協議会の賛助会員となることでいただいた「よみがえれ大船渡!東北!日本!」のロゴ入りポロシャツを着用したりする形で応援してきましたが、今年度は別の形での支援を模索していました。

そのような中、大船渡市社会福祉協議会では生活支援相談員がみなし仮設住宅等を訪問しての相談支援活動や、仮設住宅集会所でのサロン活動など心に寄り添うケアが展開されており、傾聴と見守りのニーズが顕在化しているとのお話をいただきました。

そこで、傾聴活動を通じて被災者に寄り添い精神的負担を軽減するとともに、大船渡市社会福祉協議会の後方支援活動も行うことを目的に、今年度は一宮市で活躍されている傾聴ボランティア「みみの木」に協力依頼し、「大船渡市内みなし仮設世帯への傾聴ボランティア活動」を企画しました。

傾聴とは…

自分の訊きたいことを訊くのではなく、相手が話したいこと、伝えたいことを、受容的・共感的な態度で真摯に“聴く”行為や技法。

みなし仮設住宅とは…

国や地方自治体が民間の賃貸住宅を借上げ、仮設住宅とみなして提供するもの。被災者が自力で賃貸住宅を見つけて入居した場合も仮設住宅とみなす。

生活支援相談員とは…

保健師とも連携して仮設住宅などに暮らす被災者の生活支援や自殺防止、コミュニティ育成にあたる役割。

大船渡市の概要

岩手県の沿岸南部に位置し、陸中海岸国立公園の代表的な景勝地として知られる碁石海岸や三陸沿岸の最高峰五葉山県立自然公園など、自然豊かで風光明媚なまちです。

夏は涼しく、また、冬にはほとんど積雪が見られず、比較的温暖な心地の良いまちです。

人口：39，445人
世帯：14，652世帯【平成24年11月末時点】

東日本大震災での被害状況

震度：震度6弱
津波最大波：11. 8m

人的被害
死亡者：340人
行方不明者：80名

建物被害
5, 530世帯
全壊：2,787　大規模半壊：429
半壊：718　一部損壊：1,596

現地の皆様の笑顔にこちらが元気をもらいました。

傾聴ボランティア活動レポート

活動の流れ

個人宅にて

生活支援相談員さんへ
小物づくりを伝承する場面も

1日目　傾聴ボランティア「みみの木」3名と職員1名で一宮市から大船渡市へ向け出発

↓

2・3日目　2名・2グループに分かれ、午前・午後で個人宅または集会所サロンで傾聴活動実施。

↓

4日目　午前中に個人宅または集会所サロンで傾聴活動を実施し活動終了。一宮への帰路に就く。

集会所サロンにて

伝承された折り紙のコマ作り
サロンで活用されていました

活動を終えて…

4月の訪問時は震災から丁度1年。到着したホテルのロビーには、喪服姿の女性や作業服の若い男性、リュック姿のボランティアの人々がいて、きれいにリフォームされたホテルとは対照的で、緊張感に包まれた。

3・11、とてつもなく揺れた!四つん這いになっていてもバタンと倒れた。そして津波が襲って来た。家や車がギシギシ、バリバリと音を立てながら川を上ってきた。そして、「みーんな、海にもっていかれた!」と老人が言った。

毎月「みみの木」有志は、気持ちを引き締め大船渡へ出発した。お会いできる方は限られているが、訪問先では「仕事でもないのに私の話を聴くだけにそんな遠くから来てくれて有難う。元気になった。忘れないで欲しい。今日は久しぶりに大笑いした。今晩はゆっくり休める。」という言葉を頂き涙した。

11月私は2回目の訪問となった。今回は震災の話は減り、これから先の生活の不安を話される人が多かった。高齢者の皆さんは自分のことより、若者・子どもの将来を心配されていた。

あの日から2年。皆が疲れてきている。しかし、いつか光が見えてくると信じ小さな力を一つ、又一つと合わせて頑張っている。私には現地相談員、支援員の方々が、その光の様に見えた。

離れていても状況は変わって来ていても、まだまだ私たちが出来ることはきっと有る。それを探し支え続けなければと思った。一日も早い復興を心より祈ります。

一宮傾聴ボランティア「みみの木」より

まずは、この活動においてご協力いただきました傾聴ボランティア「みみの木」代表の早川様をはじめ会員の皆様に厚くお礼申しあげますとともに、8 か月間にわたり、おつかれさまでした。ご苦労されたことも多かったと思いますが、一つの事業を成し遂げた達成感はひとしおであることと存じます。

さて、東日本大震災により被災された方々の生活状況はさまざまでした。部屋の天井近くまで水は入ってきたが、清掃して今でもその家に住んでいる方。家ごと流された方は、仮設住宅に移り住んだり、旧公共住宅に移り住んだりすることを余儀なくされています。また、元々家があった場所に新築するかどうか、家族で意見が分かれ、建て替えられないまま現在に至っている方もおみえになります。

傾聴ボランティア活動は、そういった問題を解決することはできないけれども、被災者の心の拠り所となり、話を聴き、同じ立ち位置で内容を受け入れてくれる活動であると改めて思いました。

しかしながら、土地勘がなく人のつながりもない者が現地に出向いて出来ることは限られていることも実感しました。訪問先の情報や同意を得ることは、信頼関係ができていないと許されません。現地社協の生活支援相談員さんに個人宅や各サロンとの連絡調整、同行していただけたからこそ傾聴ボランティア活動ができたのです。通常の業務以外に、傾聴ボランティアの訪問シフトを組んでくださり、大船渡市社協の生活支援相談員の皆様に感謝です。

これからも被災地の方々に、“いちのみや”を身近に感じてもらえるように活動していきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

一宮市社会福祉協議会職員より

一宮市社会福祉協議会及び傾聴ボランティア「みみの木」の皆様に大船渡市被災者への4月～11月までの長期の支援をいただき、長い間ありがとうございました。今回の支援をいただき、傾聴訪問していただいた方々から「遠く県外より寄り添うように来ていただき、とても嬉しかった」との声や、毎回来るのを楽しみに待っている方もありました。また、「みみの木」さんが持参した「千羽鶴」から千羽鶴を折り始めた方もあり、皆様への感謝の言葉を頂いています。

今後、復興が進む中で個々の歩調はさまざまで、これからの生活に不安を話される方も多くいます。今回の傾聴活動において、被災者の皆さんが喜んでいただき、私達相談員も喜んでいます。そして、私達被災地の思いを皆様に分かっていただき、とても嬉しく思っています。皆様のご支援に感謝して、今後も被災者に寄り添う活動を行っていきます。ありがとうございました。

大船渡市社会福祉協議会　主任生活支援相談員さんより

離れていても大船渡市の１日も早い復興を心から願っています。